

徳島県住生活基本計画評価検討委員会（第4回）

□日時：令和8年1月16日（金） 午後13時30分から15時30分まで

□場所：徳島県庁4階 405会議室

□出席者：（委員）

天田委員、池辺委員、近藤委員、白桃委員、  
田口委員、谷委員、福井委員、米田委員

（オブザーバー）

森本書記長、鎌田代表理事、坂本会長

（事務局）

住宅課長ほか

□次第：1 開会

2 挨拶

3 議事 （1）第4次徳島県住生活基本計画について  
（2）第5次徳島県住生活基本計画に向けて  
（3）その他

4 閉会

□配付資料：

資料1 評価指標に対する中間評価

資料2 天田委員資料

資料3 近藤委員資料

資料4 白桃委員資料

資料5 福井委員資料

資料6-1 森本オブザーバー資料

資料6-2 鎌田オブザーバー資料

資料6-3 坂本オブザーバー資料

資料7 見直しスケジュール

□議事

1 開会

2 挨拶

住宅課長から挨拶

3 議事

（1）第4次徳島県住生活基本計画について

<議論の概要>

【委員長】

それでは、早速議事に入ります。「第4次徳島県住生活基本計画について」、事務局からご説明ください。

【事務局】

（「資料1」の説明）

## ○資料1についての質疑等

### 【委員長】

前回、評価内容について議論をしましたが、意見が変わった方は仰ってください。特に意見がなければ、資料1のとおり承認したいと思います。

続いて、議事2の「第5次徳島県住生活基本計画に向けて」に移ります。次期計画の参考とするために、建築に限らない各分野でご活躍の皆さまから、幅広い生活全般について現状や課題について発表いただきたいと思います。

まずは、林業の分野からよろしくお願いします。

（「資料2」の発表）

## ○資料2についての質疑等

### 【オブザーバー】

素材生産目標量を40万m<sup>3</sup>と設定されていますが、どこにどのくらいの割合で販売するのですか。

### 【B委員】

ウッドピアのことで言うと、C材が4割ぐらいで、A材とB材が残り半々ぐらいの割合になっています。販売先としては、直で製材工場に販売することもあります。それ以外は仲買の業者さんにお任せして販売しています。その場合、明細を確認する際に用途等が分かります。

### 【オブザーバー】

なぜ40万m<sup>3</sup>という目標量になったのですか。それだけの量を平均的に生産しないと、徳島の森林の環境がよくなるからでしょうか。

### 【B委員】

そういう理由も含めて、50年生以上となる木材資源が72%と備蓄量が多く、それを若返らせるための目標設定として、徳島県で2028年度には60万m<sup>3</sup>を目指しています。

### 【A委員】

県の施策として、その目標が森林管理のための生産量なのか、あるいは経済ベースに乗せるための生産量なのか、おそらく業者間できちんと共有できていないことが課題かもしれません。

### 【オブザーバー】

現場の立場としては、仕事が増える一方で、経済的なメリットがないと職人が疲弊していき若い人が続かなくなってしまう。

### 【B委員】

今のところ補助金ですべて賄っている状況で、木材の売り上げでは会社経営はなかなか厳しいかもしれません。

### 【A委員】

若い木が極端に少ないと、その分だけ土地が空いている状況ということですか。

【B委員】

高齢級の木が大きくなり、全体面積の多くを占めています。

【A委員】

若い木を植えるだけの循環できるスペースがないということですね。

【委員長】

続いては経済分野についてよろしくお願いします。

（「資料3」の発表）

### ○資料3についての質疑等

【A委員】

コンクリート等を材料とするマンションでは住宅価格の高騰が進み、対して国産材を使うケースが多い木造住宅に関してはそこまで価格が上がりにくいのは妥当だと思います。さらに言うと、若い人に戸建て住宅がお得だと宣伝すると、林業や建設業にとっても良いことで、世界の物価変動にも影響を受けにくいと言えると思います。

【E委員】

それと、地方に回帰する動きも生み出せなくはないと思います。県内で知られていない優良企業と併せて、県内での住宅の安さや住みやすさのメリットを情報発信してもらうのも良いと考えています。若者世代等にヒアリング調査をしてもいいかもしれません。子育て世代になると、すでに県外で基盤が安定しているので戻ってこれないということもあり、早期から情報発信をしていくことが大事だと思います。

【A委員】

今では高校生もほとんどが進学するようになったので、就職を考えるタイミングが高校時代にはほぼなくて、大学に進学するのも県外だと地元の情報がないという話です。もしかすると、親とか血縁者とかに対してどうやってインプットしてもらうかを考えないといけないですね。

【委員長】

続いては、子育て分野からよろしくお願いします。

（「資料4」の発表）

### ○資料4についての質疑等

【A委員】

孤立が進んで情報が得られず支援にたどり着けない人が多くいる一方で、施設利用者も多くいるとのことですが、その利用者はどこでどうやって情報を手に入れているのですか。

【D委員】

SNSと口コミです。

【A委員】

ということは、おそらくそこにも情報格差があり情報にたどり着けていない人たちが潜在的にいると思います。移住者の身からしても、孤立を感じていました。妊産婦の死因 1 位が自殺というのはかなり深刻だと感じました。

【G委員】

こういう話は、てっきり都市部の話と認識していましたが、地方都市でも同じようなことがあるのですね。

【D委員】

はい。特に赤ちゃん連れの方だと「大人と話す機会がない」と孤独を感じている方が多いです。アパートに住んでいる場合でも、ドアが閉まっていて、その家庭がどのように住まわれているのか分からないので、コミュニケーションが取れるような住宅だといいですね。そこが課題だと感じています。

【A委員】

実は産後よりも、産前にどれだけコミュニケーションのパイプを作れるかどうかで、妊婦研修みたいなことをどれだけやるかも影響すると思います。

【D委員】

産前から来てくださった方の施設のリピーター率は100%です。1人目が順調に育てられれば、2・3人目も来てくださいます。ですので、1人目がすごく大事です。

【E委員】

拠点が沖洲ですと、利用される方は徳島市内の方なのか、どこからいらっしゃる方が多いのか、県内によっても孤立の仕方に違いがあるのか教えてください。

【D委員】

私たちの拠点の場合は、徳島県内全域からいらっしゃっています。近いという理由で徳島市の方が多いですが、美馬市や神山町、阿南市から来られる場合もあります。なぜかという、親同士が気軽に喋れる友達が作れる場所が既存の女性相談支援の中では少なく、例えば、山間部になるとコミュニティがすでに固定化されているので、気軽に行きづらい、同じような世代に出会えないといった理由で、利用されている方が多いです。

【A委員】

産婦人科が民間だと3院しかないと言った計画分娩が必要になる場合もあるみたいです。

【D委員】

医療面では総合病院でも助産師が足りていないようで、産後ケアとか妊娠中のケアまで手が回らないのが現状です。

【A委員】

住宅のことでいうと、住宅やマンションでも開口部が少ないので見えないですね。外にも内にも見えないというのは、閉塞感に繋がるところもあります。

【委員長】

続いては、福祉防災分野からよろしくお願いします。

（「資料5」の発表）

○資料5についての質疑等

【A委員】

先ほどの子育て分野の話と繋がるどころが結構多いと感じました。社協さんは幅広く活動されているので、いろんな組織体がどのように連携するか。とはいえ、民生委員の担い手も不足していく中でソフト的な支える仕組みを含め、住生活として考えていくことが重要だと感じました。

【委員長】

最後に、住宅の担い手分野からご発表いただきます。

（「資料6-1」の発表）

（「資料6-2」の発表）

（「資料6-3」の発表）

○資料6-1, 2, 3についての質疑等

【A委員】

省エネ評価でいえば、省エネ法によって全国同一の基準が定められているが、評価のタイミングは大工さんが現場の状況を見ながら柔軟に判断できるようになればいいと思います。そうしないと、これから更に既製品のための住宅になってしまうのではと憂慮します。今は「住宅」といえばハウスメーカーのことだと思い込んでいる学生もいるので、「住宅」とは暮らしに合った建築を作っていくものだとして認識してもらう必要があると感じました。

（3）その他

事務局から、第3以降のスケジュール等について説明。

4 閉会